

唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画第3回策定推進委員会 会議録(要旨)

○開催日時

令和5年10月24日(火) 午後2時00分～午後3時45分

○開催場所

唐津市役所大会議室(本庁4階)

○出席委員

松尾委員(会長)／安岡委員(副会長)／山口(恭弘)委員／内山委員／
中村委員／山口(ひろみ)委員／前田委員／坂田委員／松下委員／谷口委員／
中島委員／大木委員 ※順不同

○資料

- (資料1) 取り組み体系の見直しについて、素案
- (資料2) 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画の基本理念案
- (資料3) 地域福祉計画策定に関する 中・高生の参画 について

○内容(要旨)

<開会>

<資料確認>

<会議成立の確認> 委員17名中12名出席により会議成立となる
以降、会長により進行

<議題>

- (1) 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画の素案及び取り組みの体系について
資料1により事務局より説明

【質疑】

(委員) 自分は過去3期の計画の策定会議に出席している。第2期、第3期と目標が大きく変わっている。前は、包括的な支援のため、利用しやすくするため、サービス向上、参加しやすい、となっていたがこれが変わっている。今回の目標は1の中に共助のことばかり6つ集まっているような気がする。相談支援が上のランクになったのは、国からこういう指示が出ているのか。福祉サービスの向上が少なくなって、共助を強調しているようで疑問だ。これまでの枠組みを変えて、共助を強調するものになったのは危険ではないか。

(会長) これまでの計画の会議に出ている他の委員の意見はどうか。

(委員) スリムになった印象は受ける。何々のために、という表現からは大きく変

わったように思う。

- (委員) 第3期から変わるべきものは変えなければいけないとは思いますが。
- (会長) 今回の3つの目標の1、つながりながら、2、寄り添う、3、連携して支える、ここに本人たちの発言が出てきていない。困っている人の発信をどうとらえるか。発信しやすくするというのを大きな体系の中に入れてほしい。必要な変化だとは思いますが、悪い方向ではないと思うが、委員の意見や当事者たちのないところでの変化ではなく、当事者のあるところの変化にしてもらいたいと思いますが、どうか。
- (委員) 当事者の意見を尊重するようにと何度も言ってきたが、これは悪く言うと福祉を施すというように感じる。福祉サービスの提供、福祉サービスの向上が中心だったのに。困っている人とあるが、障がい者は困っている人なのか。唐津市の者がしっかり考えないと。当事者に関わらない計画は作らないでほしい。
- (会長) 当事者とは、障がい者やその家族だけではない。私たちみな当事者である。子どもがいれば子どもも当事者、その家族も当事者である。そういった広い視野で改善を願いたい。基本目標の表現も変える必要があるだろう。他に意見は？
- (委員) 誰が見てもわかりやすい具体的なことが書いてあればわかりやすいのですが。箇条書きなので響いてくるものが少ないなあと感じた。
- (委員) 障がい者支援では障害がある人や子どもが自立した生活が営めるよう、となっているが、体系の中に「自立した生活」という言葉が出てきていないのはいかがなものか。
- (会長) 歩けない私がどう歩き、どう暮らしているかみなさん知らないでしょう。医者でも市民でも障がい者の生活をどのくらい知っているのか、ということ。自立した生活の仕組みを誰も知らない。自立生活のできる知恵を見せるための施設が活用されていない。自立した生活の方法を、トレーニングする側も知らないというのが現実。なぜ本人たちの生活を見て計画を作ろうとしないのか。今のことは障がい児、障がい者、高齢者のことに限って申したことであるが、もっともっと知ってもらいたい。
- (委員) 困っている人に寄り添う、つながる、連携して、とあるが、当事者が中心になって計画が練られていないと思う。やはり当事者の自立、当事者に寄り添う、それを表現するテーマに。医療が一番大事であり、上から目線でなくてそれをどう提供していくかを示してほしい。そして数値目標設定すると、毎年、関係団体の者にも目標に向かう気持ちが共有できる。
- (委員) 意見を聞いていて、唐津市は素晴らしいと思った。ここまで意見が出るのは、委員会の人選時点で市の考えも出ていると感じる。今、子どもの意見表明、施策反映ということが進んでいる。まさに当事者の声の反映である。ひきこもりで社会とのつながりをなくした人の声をどう取り込むか。アウトリーチという言葉もある。こちらから出ていく。孤独・孤立にはアウトリーチ、伴走的支援、これらを項目として上げてもらうのもよいかと思う。

- (委員) わかりやすい表現をされているんだな、とは思いますが。人口も減り、関心の低さや隣近所とのつながりのないところを変えていければ、とは感じている。
- (会長) 知らないからできない、の解決も福祉で重要と思う。
- (会長) 事務局はどうか？ 表現や組み換えは考えられるか？
- (事務局) 基本目標に当事者目線が見えないというご指摘かと思う。当事者とはみなという認識であった。1、2、3の目標は再検討したいと思うが。
- (委員) 体系を3つに分けるなら第2期の体系にすべきだ。福祉サービスの向上を中心に。その上に利用しやすいサービス、最後に参加しやすさ、という形に、平成26年の第2期の考え方に戻して。市のみんなが一生懸命考えて作った計画だよ、というものになってほしい。課長さんたちが責任をもって6年間の計画を作してほしい。
- (会長) 是非そういう方向性だと思うが、事務局はどうか。
- (事務局) 細かい取り組みは各個別計画で展開される。今回の体系案で、これまでの取り組みが消えているものではないが、サービスを最初にとということでも考えてみたい。
- (会長) 地域福祉サービスが頭にくる、ということかと。
- (委員) メインになるのはどの項目かを考えてほしい。福祉・医療サービスの充実が一番メインであるべきだ。そこのボリュームを大きくしないと、共助の中にちょっとサービスがあるようなものになってしまう。サービスが一番大事なので、福祉サービスの向上が一番大きいものにならないといけない。
- (事務局) 共助がメインに見えるようになっていとおっしゃっていると思うが、各福祉サービスも、後ろの章で事業展開などとして十分書いていく。行政のサービスは主要推進事業として展開していく作りである。体系、項目名は計画の顔になるところなので、ご意見を反映し工夫したいと思う。

<15分休憩>

(2) 第4期唐津市地域福祉計画・地域福祉活動計画の基本理念について
資料2により事務局より説明

【質疑】

- (会長) 基本理念についてである。皆さんはどんな唐津にしたいのでしょうか。それが表されるのが理念。各委員の意見を聞きたい。
- (委員) 資料のA～Fの案、みな根っこのところは同じ。基本の心は一緒だと思う。
- (委員) 思いは共通していると思う。それをみんなにわかるように、どう表現するかなのだけれど、自分はこれ、とはまだ言えない。
- (委員) 中身が固まってからではないか。議論を尽くして内容を決めてからの理念ではないか。
- (会長) 理念があってから中身があるという考えもあるかと思っていたところ。

- (委員) ここまで意見が飛び交うのは各自治体でもめずらしい。SDGsの、誰一人取り残さない、も参画だし。この中でいうとCの「共生」というのがまさにそれだと思う。
- (委員) ほとんどに「支える」という言葉があるが、支えるという言葉に抵抗がある。上から目線に感じる。みんな安心して生活できるようなものを理念にするべき。
- (会長) 「支える」だと上から目線に感じるが、「支えあう」だと一方通行ではなく、これも重要であると思う。支えるには、支えを許す気持ちが大事、支えてもらうときには支えられることを心で許せないとだめなので。
- (委員) 基本理念案では「支えあう」が多くあり、先ほどの意見のように「安心」が必要である。「支えあう」と「安心」がキーワードかと思う。
- (会長) 今日、これをまとめていくのは難しいようだが、事務局としては今日決まないと間に合わないのだろうか？
- (事務局) 理念、コンセプトがまずあると計画も作りやすいのは確かである。福祉を考える会、当委員会での意見から本日はご提案している。Dの「支えあいともに生きる 安心なまち からつ」がこれまでのご意見を一番反映しているようにも感じるが、次回で再度お出ししたい。

(3) 若い世代の意見聴取の実施方法について

資料3により事務局より説明

- (事務局) 未来を担う子どもの声を地域福祉計画にもという市民意見が「福祉を考える会」でもあり、そうしたいと思ったものである。ついては、座談会の参加者に本委員会の中から男女1名ずつくらい参加してもらえないかと思う。
- (会長) 若い世代の意見聴取の方法についての事務局からの投げかけである。参加者を男女1名など当委員会から決めてほしいということのようだがどうか。
- (委員) 参加予定者で、子どもの中に特別支援学校から1名をお願いしたいが。
- (事務局) 普通学校、学級に通う子どもを対象と考えていた。障がいのある子どもの意見もありがたいのでそのようにしていきたい。谷口委員とか山口(ひ)委員はどうかなと思うが、自薦他薦あればお願いしたい。
- (会長) そのお二人だと託せると思うが。委員各位はどうか。障がい児がぜひ参加してくれるようお願いしたい。委員からは谷口委員、山口委員でどうだろうか。

<委員全員承認>

- (委員) 今回の次の計画策定(第5期)の時には、中・高生とも一つ。福祉の分野から10人前後(大人)を集めて意見聴取するというを提案したい。当事者の意見を、障がい、高齢、生活困窮、子育ての当事者から。
- (事務局) フォーラムのようなものになるかどうか。次回の計画では検討したいと思う。

<議題終了>

(事務局) 事務連絡。次回は12月1日となる。今日の宿題を踏まえてできるだけお示ししたいが、もし何かあれば追加で委員会、ないし書類討議の開催でパブリックコメントに向けた素案確定に進めていきたい。

以上